

伊丹市学校教育審議会

会長 深野 康久 様

伊丹市教育委員会



いたみ教育未来戦略の策定について(諮問)

少子化の進行や人口構造の変化に伴い、子どもの教育を取り巻く環境は大きく変化しており、全国各地で教育施設のあり方や教育環境の見直しに向けた議論が進められています。

本市においては、大阪近郊に位置する特性から、人口減少は比較的緩やかに推移しており、年少人口についても中長期的な減少が見込まれるものの、一部の地域では一定期間は増加見込みであるなど、人口の地域偏在の課題を抱えています。

このような状況のもと、将来にわたり子どもたちの学びを支える教育環境を確保していくためには、単に児童生徒数の増減のみを基準として施設規模や配置を検討するのではなく、これからの時代に求められる学びのあり方を踏まえたうえで、本市として目指すべき教育の姿を整理し、それを実現するための施設環境や適正な規模・配置について、総合的に検討する必要があります。

こうした考えのもと、本市における幼児教育及び義務教育のあり方について、それぞれ中長期的な方向性を示す「いたみ教育未来戦略」として整理するにあたり、専門的かつ総合的な見地からのご意見を頂きたく下記のとおり諮問します。

記

1. 今後の幼児教育のあり方について

幼児教育については、平成26年6月に学校教育審議会の答申を受け、その後、平成30年3月に伊丹市幼児教育推進計画を策定し、本市における幼児教育の充実に取り組んでまいりました。平成26年の答申から一定期間が経過し、保護者ニーズや人口動態に変化が見受けられることから、過去の審議会答申や取組経過を踏まえ、本市における幼児教育のあり方をあらためて検討するとともに、公立幼児教育施設の適正規模・適正配置についてもご審議ください。

2. 今後の義務教育のあり方について

義務教育については、次期学習指導要領の論点整理なども踏まえながら、多様な学びのあり方や、義務教育終了までの学びの連続性、教育を支える教職員の働く環境のあり方など、今後目指すべき義務教育の姿を示したうえで、これに適合する施設環境や適正規模についてもご審議ください。

以上